

夢枕

時おり夢枕に現れる 亡き父の鬼の形相

息苦しさに目を覚まし

できるだけ早くテレビのリモコンスイッチをオンにする
現実の憂いを語り続けるテレビの中の数々の言葉も

私にとっては必要不可欠な味方

精一杯の想像力をひろげて

画面越しの人生に思いを馳せてみる

いつの間にか現実逃避が上手になったのかもしれない

最近見つけた 夜の喉の乾きを潤すそのマスクは

私に小さな希望と期待を与えてくれた

「いつか再び自分の目の前に現れると約束した誰か」が

私を違う現実へと誘ってくれそうなのかな予感

マスクにひそむラベンダーの香りに包まれて

「約束した誰か」をさがしに

瞼の中で 時をかける

今宵こそ オールナイトショーであることを祈りながら